

科目	運動学 I (PT)	担当	古川 公宣	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

【授業目標】

生体の構造学的知識を基盤として、運動と力学の関連性を学ぶ。
 運動学の基本原理、関節の構造と機能、骨格筋の構造と機能を学ぶ。
 生体の関節構造と運動特性に関わる筋の役割について学ぶ。

【到達目標】

ヒトの運動が重力下で行われるために必要とされる筋の働き、筋以外の支持組織の働きなどを総合的に考え、目で見た運動を専門用語を用いた言語的表現に置き換えることができる。

【履修注意】

この科目は、身体運動を理解し患者の動的問題を発見する糸口の基盤となる学問である。

【評価方法】

期末試験、出席状況、受講態度などを総合的に判断。

【試験について】

筆記試験(出席日数が規定に満たない場合は受験不可)を行ない、60点以上を合格とする。
 再試験対象者の条件:60点未満を再試験対象とする。

【予習・復習】

解剖学、生理学の知識が必須となるため、講義前にはシラバスを確認して必要事項を予習すること。また、疑問点を解決するために、復習も最大限行うこと。

【教科書】

書籍名:原著第2版 カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 著者:Donald A. Neumann 出版社:医歯薬出版(株)

【参考書】

特に定めない。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	総論1	身体運動学とは？動きの解説、骨運動、関節包内運動
2	総論2	人体関節の基本的構造と機能
3	総論3	骨格系の主要な安定器と運動器
4	総論4	生体力学の原則
5	肩複合体1	構成する骨、関節構造
6	肩複合体2	関節構造、筋と関節の相互作用
7	肩複合体3	筋と関節の相互作用
8	肘と前腕1	構成する骨、関節構造
9	肘と前腕2	筋と関節の相互作用
10	手根1	構成する骨、関節構造
11	手根2	筋と関節の相互作用
12	手部1	用語、構成する骨、関節構造
13	手部2	筋と関節の相互作用
14	体軸骨格1	骨と関節構造(頸椎と胸椎)
15	体軸骨格2	骨と関節構造(腰椎と骨盤)
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ